



JUNIOR YOUTH

出場記念特集

第23回日本クラブユース選手権(U-15) さらにパワーアップして全国へ！ 100パーセントの力で戦う



苦しかった関東予選を勝ち抜いた日を忘れない(6/22/ヴェルディグラウンド)

浦和レッズジュニアユースが
出場する第23回日本クラブユース選手権(U-15)は8月9日(土)からグループリーグが始まる。苦しかった関東予選を勝ち抜き、全国への切符をつかんだ日から1か月半。さらに練習を積んできた選手たちが、3年ぶりの優勝を目指し、夏のJヴィレッジで戦う。ふだんとは環境の違う場所で最大11日間の集団生活。勝つためにはサッカー以外の要素も必要だ。それが選手たちを人間としても成長させる。大事なことは与えられた場で自分の力を100パーセント発揮すること。結果はその後でついてくる！

フィジカルはしっかり上げてきた 課題は選手たちも意識しているはず

監督 名取 篤

関東予選の初戦は、先制されてもう追いつけないかという試合でしたが、そこを追いつきPK戦で勝ったのは選手にはすごく自信になったと思います。そういう意味では成長した部分があるかもしれません。試合の中でボールに携わっていない選手も、守備なら守備に参加する、攻撃なら攻撃にしっかりと意識だけでも参加する、というものをみんな持てるようになってきたと思います。

関東予選が終わってから大阪の堺市長杯大会に遠征して、G大阪、神戸、C大阪のジュニアユースと対戦してきました。そこでも決定的なチャンスを多く作りながら決められないとか、引いた相手に対して崩しきれないとか、攻めに人数をかけすぎてカウンターでやられるとかいう今季の弱点が出ました。そこは選手たちも何とかしなければ、という気持ちを持っていると思います。そういう意識がプレーに現れてきてくれれば、そのための練習を最後までやっていきます。

初めての相手が多いので試合の入りが非常に重要です。それはJの下部組織であろうとなかろうと同じです。またグループリーグが3日間続きますが、それを大阪遠征の翌日静岡で試合をやって経験させてきました。フィジカル的にももうワンランク上を目指していますし、そこは準備できてきたと思います。

夏の大会では、試合を重ねるごとに食事量が落ちていくと戦えませんから注意したいし、常にサッカーのことを考え続けていたらやっぱり良くないと思うので、試合は試合、練習は練習、遊びは遊びとメリハリをつけることが大切だと思います。

選手、個々を見て、毎年驚かされるのですが、それまで頼りなかった選手が最上級生になって嫌なことでも自分たちがやらなければ勝てない、ということを理解し始めると、変わってきます。調子の良くない選手、ケガ気味の選手もいますが、2年生、1年生も含めて試合に関わってきている選手が多いので、層は厚くなってきていると思います。



2 DF 小出啓太

Keita KOIDE

3年 / 北浦和サッカー少年団
得点能力もあるサイドバック

かなりきつい練習をしてきて、全国大会に向けてみんなのモチベーションも高まってきているので、いい感じで戦えると思います。グループリーグが3日間連続ですが、初戦と2試合目をしっかり戦えば続けていけると思います。サイドからの攻撃を生かし、決めるところを確実に決めていきたいです。これまで試合に絡んでいる選手が多いので、みんなで戦えると思います。長い合宿生活になりますが、みんなで注意しあってやっていきます。(83)=キャプテン



1 GK 大石祐輝

Yuki OISHI

3年 / 長瀬サッカー少年団
気持ちを前面に出してゴールを守る



4 MF 金野僚太

Ryota KONNO

2年 / 柳崎サッカークラブジュニア
スピードを武器にするレッズの虎



6 DF 西澤秀平

Shuhei NISHIZAWA

2年 / 松山サッカー少年団
長身ながらも柔らかいボールタッチで試合を支配



8 MF 片 慎吾

Shingo KATA

3年 / 鴻巣MJキッカーズ
チームの柱。最後まであきらめない闘将



3 DF 皆川孝之

Takayuki MINAGAWA

3年 / 所沢サッカークラブジュニア
ヘディングを武器にする左利きセンターバック



5 DF 西山航平

Kohei NISHIYAMA

3年 / 常盤スポーツ少年団サッカー部
守備の要。1年から全国を経験、この夏に懸ける



7 MF 鈴木悠太

Yuta SUZUKI

3年 / 東松山南サッカー少年団
ナイフのような切り返しでサイドを切り崩す



9 FW 関口天翔

Tsubasa SEKIGUCHI

3年 / 朝霞いずみサッカー少年団
スピードあるFW。守備能力も高い

全国大会出場までの歩み

厳しい2試合勝ち抜く 決定力に課題も

関東ユースリーグ(U-15)に参加している浦和レッズジュニアユースは、埼玉県予選を免除され、関東予選のトーナメント2回戦から出場となる。そこで2試合勝ち抜ければベスト8入りし、全国出場が決まる。逆に初戦の2回戦で負ければその時点で全国への道が閉ざされ、3回戦で負ければ全国行き最後の切符を目指す9位決定トーナメントに回り、3試合を勝ち抜かなければならないという規定だった。

関東予選

- 2回戦
6/21 1-1 ジェファFC
(PK 4-2)
得: 矢島
- 3回戦
6/22 2-1 東京ヴェルディ
得: 野崎、堀田
- 準々決勝
7/5 3-0 前橋FC
得: 矢島 2、関口
- 準決勝
7/6 0-1 横浜FC
- 3位決定戦
7/12 0-1 ジェフ習志野

2試合連続逆転勝ちで全国決める

6月21日(土)の2回戦。ジェファFCをなかなか攻略できず、逆に後半先制を許す。その後、追い付いたものの延長でも勝ち越し点を奪えず、PK戦でようやく勝利するという薄氷を踏む出足の関東予選だった。

翌22日(日)には、雨の中、ヴェルディグラウンドで東京Vと対戦。良い戦いぶりを見せていたが前半終了間際、CKから失点してしまう。後半、攻勢を強めるが相手のうまい試合運びにゴールを割れなかったが20分、オフサイドを警戒し下がりで目でプレーしていた矢島慎也が後方からのパスをスルー。トップ下に入っていた野崎雅也が受けてDFをかわし同点ゴールを決めた。さらに3分後、やや前がかりになった東京Vのラインを破った堀田稜が相手GKの股間を抜いて逆転弾を放った。その後は、カウンターで3点目を狙いながらもセーフティーにリードを守りきり、全国出場を決めた。



後半23分、堀田が逆転ゴールを決め、チームメートの祝福を受ける(6/22/東京V戦)



後半20分、野崎が同点ゴールを決める(6/22/東京V戦)



10MF 矢島慎也

Shinya YAJIMA

3年 / 北浦和サッカー少年団
独特のリズムを持つFW。テクニックはピカイチ



12FW 西袋裕太

Yuta SAITAI

2年 / 道祖土サッカー少年団
ポストプレーが得意なミスター身体能力



14MF 小峯洋介

Yosuke KOMINE

2年 / 北浦和サッカー少年団
ダイナミックなパス、ドリブルでゲームメイクする



16GK 松尾大吾

Daigo MATSUO

3年 / 道祖土サッカー少年団
大吾チームでゴールを守る。フィールドもできる



11MF 堀田 稜

Ryo HORITA

3年 / 浦和大牧サッカー少年団
スピードに乗ったドリブルでチャンスを作る



13FW 平澤 遼

Ryo HIRASAWA

3年 / FC鶴ヶ島
小柄だが縦横無尽に動きチャンスメイクする



15MF 野崎雅也

Masaya NOZAKI

3年 / 所沢マッシュパッファローズ
劣を惜まずピッチを走り、得点に絡む



17MF 島貴央里

Eiri SHIMANUKI

3年 / 戸塚フットボールクラブジュニア
テクニックがあり、頑張れるMF

リードしてからも、カウンターで3点目を狙う矢島 (6/22/東京V戦)



決定力と集中力の重要性を痛感

初の関東予選大会優勝に挑んだレッズジュニアコース。準々決勝では前橋FCに3-0と、今大会唯一の完勝。しかし7月6日(日)の準決勝では、最終ラインから前線まで短いパスでつないでくる横浜FCに攻め崩せず、終盤に失点。シュート数では圧倒していたが決定力不足が最後まで響き、敗れた。12日の3位決定戦でも、関東リーグで大勝しているジェフ習志野に対し、攻めながら得点できず0-1で敗退。好機にしっかり点を取る力と、攻撃時にも集中力を切らさない守備の意識が課題として残った。



相手の粘り強いボールキープに、テンポの良い攻撃が封じられた (7/6/横浜FC戦)

前半32分、鈴木シュートはバーをたたく (7/6/横浜FC戦)



後半、小峯が何度も攻撃絡んだがゴールを割れなかった (7/6/横浜FC戦)



落ち着いた守りで相手の反撃を封じた (6/22/東京V戦)



18DF 仲田健太

Kenta NAKADA

3年 / 浦和大枚サッカー少年団
オーバーラップを得意とする疲れ知らずのDF



20MF 繁田秀斗

Shuto SHIGETA

2年 / 江南南サッカー少年団
試合の流れを読みプレーできるレッズのロナウジーニョ



22GK 吉野雅大

Masahiro YOSHINO

1年 / 上福岡少年少女サッカークラブ
どれを取ってもピカイチ。あとは経験



24MF 進 昂平

Kohei SHIN

1年 / 東川口フットボールクラブジュニア
闘う気持ちを忘れないスーパー1年生



19MF 佐藤大介

Daisuke SATO

2年 / FC東85サッカー少年団
色々なパスの種類を持つMF。ムードメーカー



21DF 新井純平

Jumpei ARAI

2年 / 江南南サッカー少年団
驚異的な体力でオーバーラップを繰り返す



23MF 関根貴大

Takahiro SEKINE

1年 / FC鶴ヶ島
どんな体勢からでもシュートが打てるスーパー1年生



25MF 小田切敦史

Atsushi ODAGIRI

2年 / 道祖土サッカー少年団
チームがきついときに頑張れるMF

第23回 日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会

大会方式

グループリーグ

4チーム×8グループでリーグ戦を行う。
順位は勝点(勝ちに3、引き分けに1)、得失点差、総得点、当該チーム同士の対戦成績、抽選の順で決定する。
試合時間は35分ハーフ。

決勝トーナメント

グループリーグの結果、各グループ上位2チーム、計16チームが決勝トーナメントに進出する。

試合時間は40分ハーフ。ただし同点の場合は10分ハーフの延長を行い、さらに決しない場合はPK方式で勝敗を決める。

出場チーム(グループ分け)

< Aグループ >

横浜 F・マリノス追浜 / 岩田 FC / ロアソン熊本 / FC東京むさし

< Bグループ >

横浜 FC / 京都サンガ / ベガルタ仙台 / ASA FUTURO

< Cグループ >

ヴィッセル神戸 / 00ダイヤモンド鹿児島 / 前橋 FC / アヴァンサル FC

< Dグループ >

浦和レッズ / FC四日市 / 大分トリニータ / 愛媛 FC

< Eグループ >

ジェフ習志野 / アルビレックス新潟 / 愛知 FC / ガンバ大阪

< Fグループ >

セレッソ大阪 / 鹿島アントラーズ / コンサドーレ札幌 / 清水エスパルス

< Gグループ >

アビスパ福岡 / 大宮アルディージャ / サンフレッチェ常石 / FC CEDAC

< Hグループ >

名古屋グランパス / フッチ FC / FCライオス / JFAアカデミー福島

試合スケジュール

8月 9日(土) グループリーグ
8月 10日(日) グループリーグ
8月 11日(月) グループリーグ
8月 13日(水) ラウンド16
8月 14日(木) 準々決勝
8月 16日(土) 準決勝
8月 17日(日) 決勝

その他 優勝および準優勝チームは高円宮杯 第2回全日本ユース(U-15)選手権大会に、日本クラブユースサッカー連盟代表チームとして出場する。

レッズジュニアユースのグループリーグ

8 / 9 13:00 vs 愛媛 FC (P17CH3)
8 / 10 10:30 vs 大分トリニータ (P17CH1)
8 / 11 15:00 vs FC四日市 (P17CH5)